

基本方針① 生活習慣病の発症予防と重症化予防

1 がん

がんの発症には、喫煙（受動喫煙を含む。）、多量飲酒、バランスの悪い食事、運動不足などの生活習慣によるもの、がんに関連するウイルスや細菌の感染など様々な要因があります。がんによる死亡を減少させるためには、がんの発症を予防するとともに、がんを早期発見し、適切な治療につなげることが重要です。

主な取組

●がんに関する知識の普及啓発

がん講演会、健康教室、健康相談や、学校、大学、専門学校等との連携による出前授業等に取り組みます。

●がんの早期発見・重症化予防

がん検診の実施、広島県や関係機関・団体との連携によるがん検診の受診勧奨のほか、がん検診の精度管理及び事業評価などに取り組みます。

主な目標項目			現状	目標
がんによる死亡率の減少（75歳未満のがんの年齢調整死亡率（10万人当たり））			78.2	69.3
がん検診の受診率の向上	胃がん	男性	38.2%	50%
		女性	28.8%	
	肺がん	男性	24.1%	50%
		女性	22.0%	
	大腸がん	男性	25.5%	50%
		女性	20.8%	
	子宮頸がん		40.2%	50%
	乳がん		35.2%	50%
成人の喫煙率の減少			15.8%	10.8%

2 循環器疾患

循環器疾患（脳血管疾患や心疾患等）の危険因子には高血圧、脂質異常症、喫煙、糖尿病があり、これらには、食塩の過剰摂取、運動不足、多量飲酒といった生活習慣が深く関与していることから、循環器疾患を予防するためには、健全な生活習慣を身に付け、危険因子をコントロールすることが重要です。

主な取組

●循環器疾患に関する知識の普及啓発

健康教室や健康相談、学校、大学、専門学校等との連携による出前授業等に取り組みます。

●高血圧・脂質異常の早期発見・重症化予防

特定健康診査及び特定保健指導の実施、地域団体等との連携による特定健康診査の受診勧奨に取り組みます。

主な目標項目			現状	目標
循環器疾患による死亡率の減少 （脳血管疾患・虚血性心疾患の年 齢調整死亡率（10万人当たり））	脳血管疾患	男性	40.8	34.3
		女性	19.3	17.7
	虚血性心疾患	男性	42.3	31.8
		女性	18.1	13.7
高血圧の改善（収縮期血圧の平均値）		男性	130.4mmHg	127.5mmHg
		女性	126.5mmHg	123.7mmHg
脂質異常症の減少（LDLコレステロール 160mg/dl以上の者の割合）	男性	10.5%	7.9%	
	女性	15.4%	11.6%	
健康診査の受診率の向上			65.6%	70%

3 糖尿病

糖尿病の発症は、食生活や運動習慣などの生活習慣と密接な関わりがあることから、健全な生活習慣を身に付け、血糖値等をコントロールすることが重要です。

主な取組

●糖尿病に関する知識の普及啓発

健康教室や健康相談、学校、大学、専門学校等との連携による出前授業等のほか、糖尿病の未治療者への普及啓発方法の検討などに取り組みます。

●糖尿病の早期発見・重症化予防

特定健康診査及び特定保健指導の実施、地域団体等との連携による特定健康診査の受診勧奨に取り組みます。

主な目標項目			現状	目標
糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数の減少			129人	減少
血糖値を適正に管理できていない者の割合の減少			1.0%	0.8%
糖尿病有病者の増加の抑制（糖尿病治療薬内服中又はHbA1cがJDS値6.1%（NGSP値6.5%）以上の者の割合）			8.6%	9.6%
メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少			27.9%	25%減少

4 COPD（慢性閉塞性肺疾患）

COPDの原因の90%はたばこの煙によっており、喫煙者の20%がCOPDを発症するとされています。COPDの発症を予防し、進行を阻止することは、禁煙によって可能であり、早期に禁煙するほど有効性は高いといわれています。また、薬物等による治療が可能であることから、早期発見・早期治療が求められています。

主な取組

●COPDに関する知識の普及啓発

COPDの認知度を高め、COPDとその予防方法について、健康教室等の実施により正しい知識の普及啓発を行うとともに、喫煙対策に取り組みます。

●COPDの早期発見・重症化予防

特定健康診査や肺がん検診など既存の健康診査の場を活用し、問診による喫煙状況の確認を通じて、COPDの早期発見に取り組みます。

※COPDは、主に長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患で、咳、痰、息切れなどの症状が出て、徐々に呼吸障害が進行するものです。